

Fig I. Frequency of Rf-values

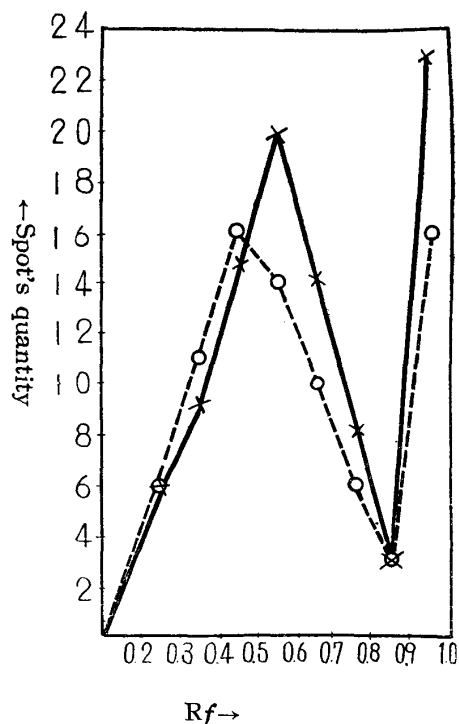
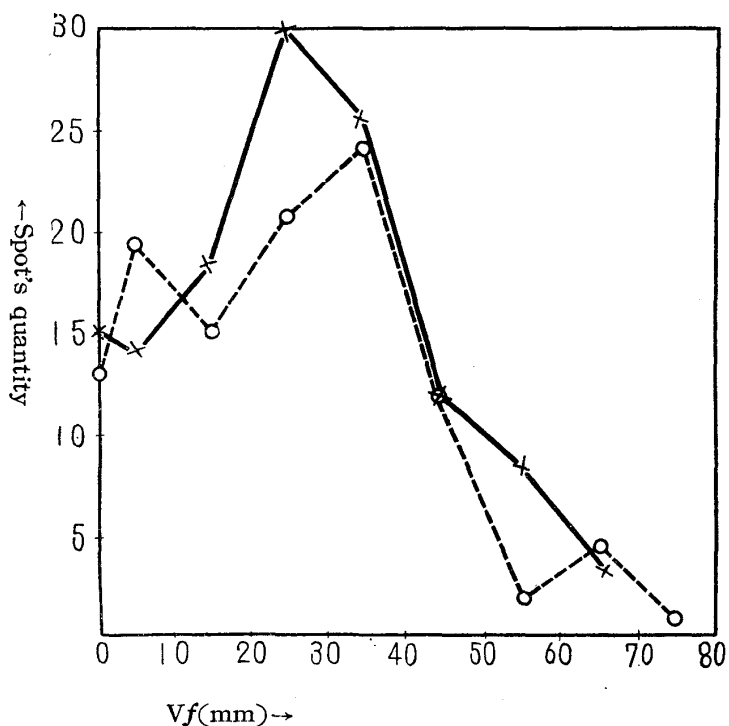


Fig II. Frequency of Vf



(Fig I, II) ○—○: Spot's quantity of EARS; ×—× Spot's quantity of STEMES and LEAVES

嶋野 武, 水野瑞夫 : テイカカズラの成分 (予報)

Takeshi Shimano, Mizuo Mizuno : Preliminary Examination on the Contents of *Trachospermum asiaticum* Nakai var. *intermedium* Nakai.

テイカカズラ (*Trachospermum asiaticum* Nakai var. *intermedium* Nakai) は キョウチクトウ科に属する植物で、漢方書の絡石はこれに当ると称せられる。絡石は腰痛等を治し関節を利するなど記されている。

金華山で採集した(11月上旬)テイカカズラの茎を細片とし、鉛塩洗酸法により Fig. I の順に成分を検索する時に、温浸出したメタノール溶液からは冷后少量の帯黄白色不定形物質を析出する。本物質はアルコールから再晶すると Fp. 97—99°。不定形帯黄白色で、水に不溶、メタノール、アルコール、エーテル、アセトンに熱時可溶。Lieberman-Burchard 反応陰性、アルカルロイド沈澱試薬により陰性、フェーリング試薬を還元しない。

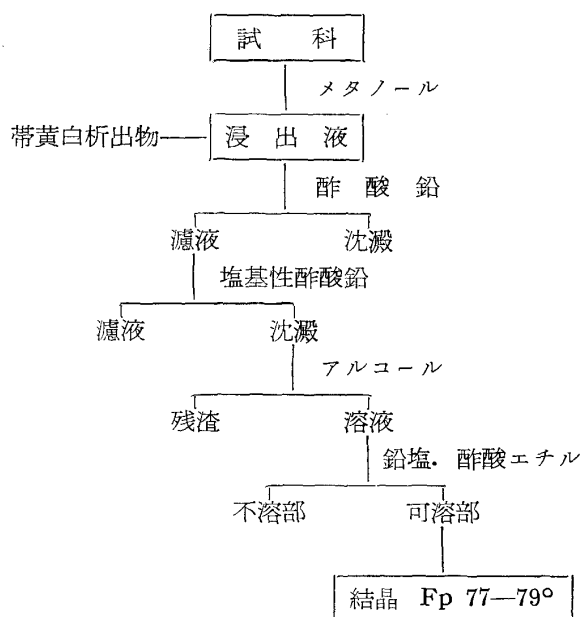


Fig. I

更に酢酸鉛、塩基性酢酸鉛により常法の処理を行つた酢酸エチル可溶部からは淡黄色の雲母状結晶塊を得た。Fp. 77—79°, 水液は PH. 4.7 を示す。冷水には難溶、メタノール、アセトンに可溶、強酸性水溶液に可溶、アルカリにては黄色を呈する。フェーリング試薬を還元しない。塩化第二鉄、タンニン酸に対する反応もない。

尙毛管分析を行つた結果は ABC 型を示し、特に  $\beta$ -Zone には紫外線下に著明な青色螢光を認め、酢酸アルミニウム水溶液により帯黄色の反応を示す。多数の展開毛細管像を作成し該帯のみを組切してメタノール抽出を繰り返した液からは鉛法により得た Fp. 77—79° のものと推定される物質を得る事ができた。

本研究は昭和 25 年度科学研究費の一部により行れたことを感謝し、また本学長宮道博士が種々便宜を供された事を謹謝する。